平成１８年８月３１日
丹波市立西小学校
教諭　細見隆昭

上新庄大谷地区を中心とした西地区水田作りの歴史

１　はじめに

葛野地区は昔から苦労して米作りにとりくんできた。大正時代になんとか水田を作りたいという思いで村人は力を合わせ、ため池や水路を整備し水田を開発した。

本研修は現地調査と聞き取りを通して、現在も使用されている上新庄・大谷地区の水路の存在に注目し、葛野村の米作りの歴史と比較しながら考察した。

２　調査の方法

日時　平成１８年８月９日（水）
場所　丹波市氷上町上新庄、大谷、中野
聞き取りをした人　山口　弘さん（氷上町上新庄、元ＪＡ職員、水利組合長）

３　昔の葛野の様子

西地区は葛野（かどの）と呼ばれ、昔は水田が少なく葛（クズ）が繁茂し、竹藪や桑畑が多かった。地区の西、南、北側の三方は山に囲まれ、東側だけが開けている。山が多いが、雨水はすぐに地中に入り地下水となるため、葛野川には雨天時以外は水がなかった。

水がないと米作りができない。そのため昔の葛野では、麦、粟（あわ）、大豆、養蚕、林業などで生計を立て、貧しい暮らしをしている人が多かった。

大正時代になり、当時の村長が葛野でも米作りができないものかと考えるようになった。県の技師を呼び調査をしてもらった結果、地表には水が無いが地下 6m～10m には水があることがわかった。

そこで、地区ごとに「耕地整理組合」を立ち上げ、池や井戸や水路を作り、米作りを始まることになった。

４　第１期の水田づくり（大正時代）

西地区で一番早く開田にとりくんだのは長野地区だった。今の墓地公園事務所の敷地あたりに長野大池を作成し、水路をひいた。また、長野の入り口あたりに井戸を掘り、当時珍しかった揚水装置を設置した。

その後、各地区にとりくみが広がったが、いずれも大がかりな工事だったため、借り入れた資金の返済にかなり苦労した。

聞き取りをした山口さんも「小学校１年生のときに、ある日突然同級生がいなくなった」と、当時村で夜逃げがあった事実を話された。

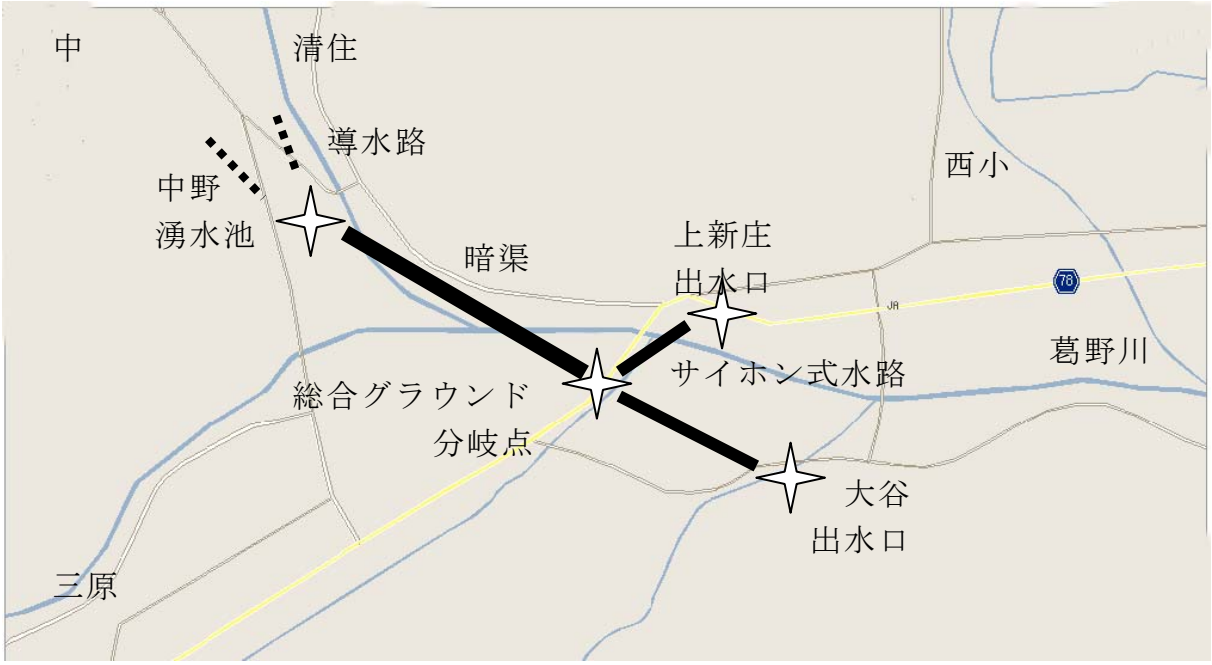
以下、大正時代の事業を年代順に記述する。

（１）長野耕地整理組合	大正　２～　６年
（２）三原耕地整理組合	大正　３～　６年
（３）柿柴耕地整理組合	大正　３～　６年
（４）大谷上新庄耕地整理組合	大正　６～１２年
（５）三方耕地整理組合	大正　９～１４年
（６）下新庄耕地整理組合	大正１１年～１５年

この中でも、特に「大谷上新庄耕地整理組合」のとりくみについて、次項で詳しく述べていく。

５　大谷上新庄耕地整理組合の開田

丹波市氷上町上新庄周辺図



（１）湧水池の設置

大谷地区と上新庄地区は共同して、中野に湧水池を設置した。（図１）

これは、地表から深く掘り下げた井戸で美しい水が年中流れているのが確認できる。

この地点からさらに西側に 50m ほどの導水路が２本ほられており、近年、平成５年には地表が陥没するという事故が起こっている。

図１　中野の湧水池

（２）暗渠

遊水池から現在の総合グラウンドまで暗渠が掘られた。これは地表から 5m ほど露天堀し、コンクリートを流し込み、直径 1m 程度の水路を地中に作成した。（図２）

この水路には今でも人がかがんで入ることができ、木の根が暗渠を崩していないか時々点検している。大正時代に作られたとはいえ、現在でも程度がよく、非常にしっかりとした作りになっている。

図２　暗渠の中の様子

（３）分岐点

総合グラウンドあたりにある分岐点で湧水池から流れてきた水を大谷地区と上新庄地区に分ける。（図３）

右側が大谷地区、左側が上新庄地区に流れるようになっている。若干大谷側の水量が少なくなるように調整されているようである。

図３　総合グランドの分岐点

（４）大谷出水口

大谷地区に流れる出水口。非常に冷たい清らかな水が流れている。（図４）

この水は現在大谷地区の水中ポンプでくみ上げた水も加えている。

大正時代の技術では地下 10m までしかくみ上げできなかったが、現在は水中ポンプができ性能が向上したので地下 10m 以上のくみ上げができるようになった。

図４　大谷出水口

（４）サイホン式水路

分岐点から上新庄に水を運ぶために、葛野川の底にトンネルを掘っている。サイホンの原理を利用して、水を送っている。（図５）

図５　葛野川をわたるサイホン式水路

（５）上新庄地区出水口

調査日には残念ながら水はなかったが、溝にはまだ新しい緑色の藻が付着しており、つい最近まで豊かな水が流れていた形跡が残っていた。（図８）

図６　上新庄出水口

６　第２期の水田づくり（昭和、戦後）

戦後、昭和２６年～３１年にかけて土地改良事業が盛んに行われた。

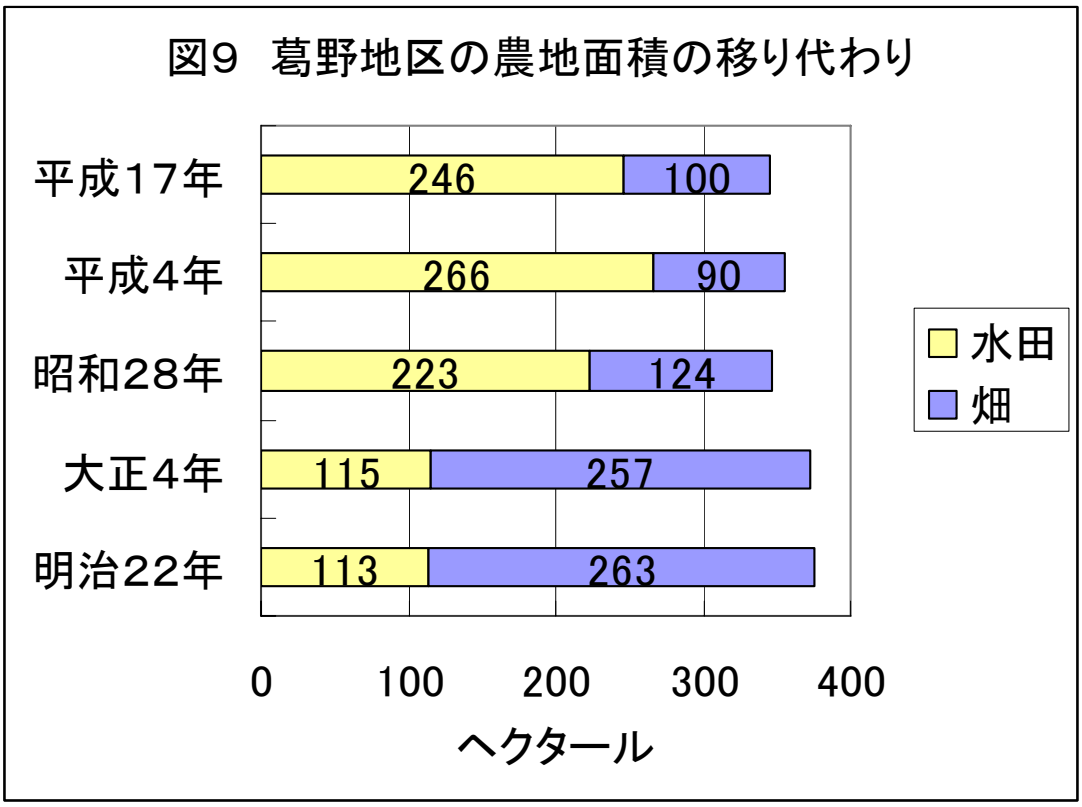
（１）中野土地改良組合	昭和２６年～２８年
（２）下（清住）土地改良組合	昭和２７年～３１年
（３）中土地改良組合	昭和２９年～３１年
（４）上新庄北部、下新庄	

清住地区では、川沿いに茂った竹藪を切り、根を起こし、石を取り除き水田づくりを行った。

７　第３期の水田づくり（昭和４０年後半）

昭和４０年後半から農業改造改善事業による圃場整備が始まり、重機を使った大規模な農地造成が行われた。

８　葛野地区の農地面積の移り変わり



３期に渡る水田づくりの結果、葛野地区には飛躍的に水田が多くなった。苦労して農地を手に入れ、借金を重ねて水路を整備したが、昭和４５年からは米の生産調整が始まり、耕地全てに米作りができなくなってきた。

また、墓地や宅地、ゴルフ場などが増え、耕地面積全体としては減少傾向にある。

９　まとめ

西地区は本当に苦労して水田を広げてきた。今残る水路や井戸を子どもたちに見せることで、先人の苦労を知り、人々の助け合いや団結を教えるよい教材になる。

２学期以降、総合的な学習の時間やわかば学級で西地区の水田を調べる学習が展開されるが、本研修で作成した地域教材を活用し、充実した学習ができるようにしていきたい。